

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11778

研究課題名（和文）紛争もたらす国民形成とその変容プロセスの包括的研究 イラクを事例に

研究課題名（英文）An Inquiry into Iraqi Nation Building in Post-war Era

研究代表者

山尾 大 (YAMA0, Dai)

九州大学・比較社会文化研究院・准教授

研究者番号：80598706

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イラクを事例に、ポスト紛争期にみられる国民形成のプロセスを動的・包括的に明らかにすることを目的とする。

そのために、「多くの人々が国家を信頼せず、相対化しているにもかかわらず、強いナショナリズムを表明するのはなぜか」という問題を解明する。この問いに答えるために、国家建設の頓挫と信頼喪失のプロセス、国民統合政策の変化、トランスナショナルなアクターとネットワークの役割の3点を順に明らかにする。手法は、地域研究（質的調査）と世論調査の計量分析（量的調査）を組み合わせる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ポスト冷戦期に多発した内戦などの紛争の結果、国民形成（nation building）が極めて重要な課題となるケースがみられるようになった。その典型例が、本研究が対象とするイラクである。イラクで紛争が継続しているにもかかわらず、国家や社会が崩壊しない要因を、様々な観点から分析することは、グローバルに広がる紛争とその後の国家建設、国民形成がいかにして軟着陸するかを考えるために、ひいては平和構築をさらに進めるために、きわめて重要な課題である。

研究成果の概要（英文）：This study aims to identify the process of nation-building in the Iraqi post-conflict period in a dynamic and comprehensive manner.

To this end, it will elucidate the question, "Why do so many people express strong nationalism despite the fact that they do not trust and relativize the state? To answer this question, it will identify three points in turn: (1) the process of aborted state-building and loss of trust, (2) changes in national integration policies, and (3) the role of transnational actors and networks. The methodology it will combine area studies (qualitative research) and quantitative analysis of public opinion surveys (quantitative research).

研究分野：中東政治、比較政治

キーワード：イラク 紛争 中東政治

1. 研究開始当初の背景

ポスト冷戦期に多発した内戦などの紛争の結果、国民形成 (nation building) が極めて重要な課題となるケースがみられるようになった。その典型例が、本研究が対象とするイラクである。イラクは、2003年の米国による侵攻 (イラク戦争) で大きな体制転換が生じ、その後も内戦や「アラブの春」、イスラーム国 (IS) の台頭などで体制が安定しないままである。その最大の要因のひとつが、紛争後に国民形成が順調に進捗していないことに求められる。したがって、本研究はイラクの事例に着目してポスト紛争期の国民形成について、包括的に分析することが必要だと考える。

申請者は、ポスト紛争期の国家建設を分析するという視点からイラクを取り上げ、国家機構の再建をめぐる諸アクターの主体性を浮き彫りにする研究に従事してきた (若手研究 B・H23~25年)。さらに、教科書分析と世論調査を組み合わせ、政府による国民統合政策と受け手である国民の態度を解明した (若手研究 B・H27~29年)。これらを通じて明らかになったのは、イラク国内の諸アクターが外部アクターの政策を自らの利害に従って利用することで、国家機構の再建に歪みが生じている点である。また、世論調査では、国家や国家機構に対する不信感が極めて強い一方で、強烈なナショナリズムを表明することが明らかになった。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、これまで申請者が実施してきた世論調査から浮き彫りになった問題、すなわち「多くのイラク人が国家を信頼せず、相対化しているにもかかわらず、同時に強いナショナリズムを表明しているのはなぜか」を解明することを通して、紛争後の国民形成のプロセスを動態的・包括的に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

この目的を達成するために、本研究では、国家への信頼性の欠如と強いナショナリズムが共存する要因の解明を通して、国民形成のプロセスを包括的に明らかにしようとした。そのために、具体的に3つの課題に取り組んだ。

(1) 国家建設の頓挫と国家への信頼喪失のプロセスの解明

国家建設がなぜ頓挫し、国家や政府がいかにして正統性を喪失していったのかを分析し、国家への信頼が失われ、国家が相対化される要因とプロセスを明らかにした。まず、国家建設が頓挫した要因として、軍と警察、官僚の人事を分析し、多様な政治勢力の浸透によっていかに「新家産型体制」が作られたのかを明らかにした。そして、この「新家産型体制」が機能不全に陥っていく様子を、現地の日刊紙をデータベース化することによって、記述的に明らかにした。

次に、政府や政治への信頼喪失の最大の要因と考えられる汚職蔓延の実態を明らかにした。これについては、資料は新聞報道や国際 NGO などの調査報告書を用い、加えて汚職追求の市民運動を率いるカーズィム・サフラーニー教授 (バスラ大学) に対するインタビューで明らかにした (2019年10月バグダードの日本大使館にて実施)。

さらに、こうした日刊紙や聞き取り調査にもとづく政治不信の蔓延を、より実証的に明らかにするために、国家や政府への信頼度を問う世論調査を実施した。実査は、サラーム・アバーディー教授とマフムード・カイスィー教授率いるバグダード大学社会学部の調査チームに委託した。実査はアラビア語とクルド語によるイラク国内の個別訪問面接聴取法で行い、1,000サンプルを抽出した。サンプリングは、民族・宗派別の人口比に比例するように注意し、層化無作為抽出法で行った。

(2) 国民統合政策の変遷の解明

にもかかわらず、紛争後のイラクでナショナルが強いのはなぜなのだろうか。この問題を考えるために、新旧体制の国民統合政策を比較し、新体制の国民統合政策が頓挫する一方、旧体制 (サダム・フセイン政権) の政策が根強く残っているという仮説をたて、それを検討した。そのために、まず、学校教科書を通じた旧体制と新体制の国民統合政策を比較分析した。教科書に加え、イラク国内の新聞・雑誌、新たに発見された旧体制の刊行物から国民統合政策の変化を分析した。それに加え、新体制下で歴史部門の教科書編纂を進めた中心人物ファッラーフ・アサディー教授 (元ムスタンスィリーヤ大学学長) への聞き取り調査も行った (2019年10月バグダードの日本大使館にて実施)。また、上記の政治不信と同様に、世論調査のなかに国民統合にかかわる質問事項も盛り込み、政府の国民統合政策にかかわる世論についても分析を行った。

(3) トランスナショナルなネットワークの解明

国家を相対化しつつ、強いナショナリズムを表明する国民が、具体的にどのようなアイデンテ

ィティを持つようになったのかを明らかにするために、国家に代わって重要な役割を果たすようになったトランスナショナルなアクターやネットワークの影響にも着目して分析した。具体的には、部族の国境を超えた繋がりや、シーア派民兵集団である人民動員隊とイラン革命防衛隊や宗教界とのネットワークの実態を、主として新聞報道のデータベースを利用して分析を進めた。

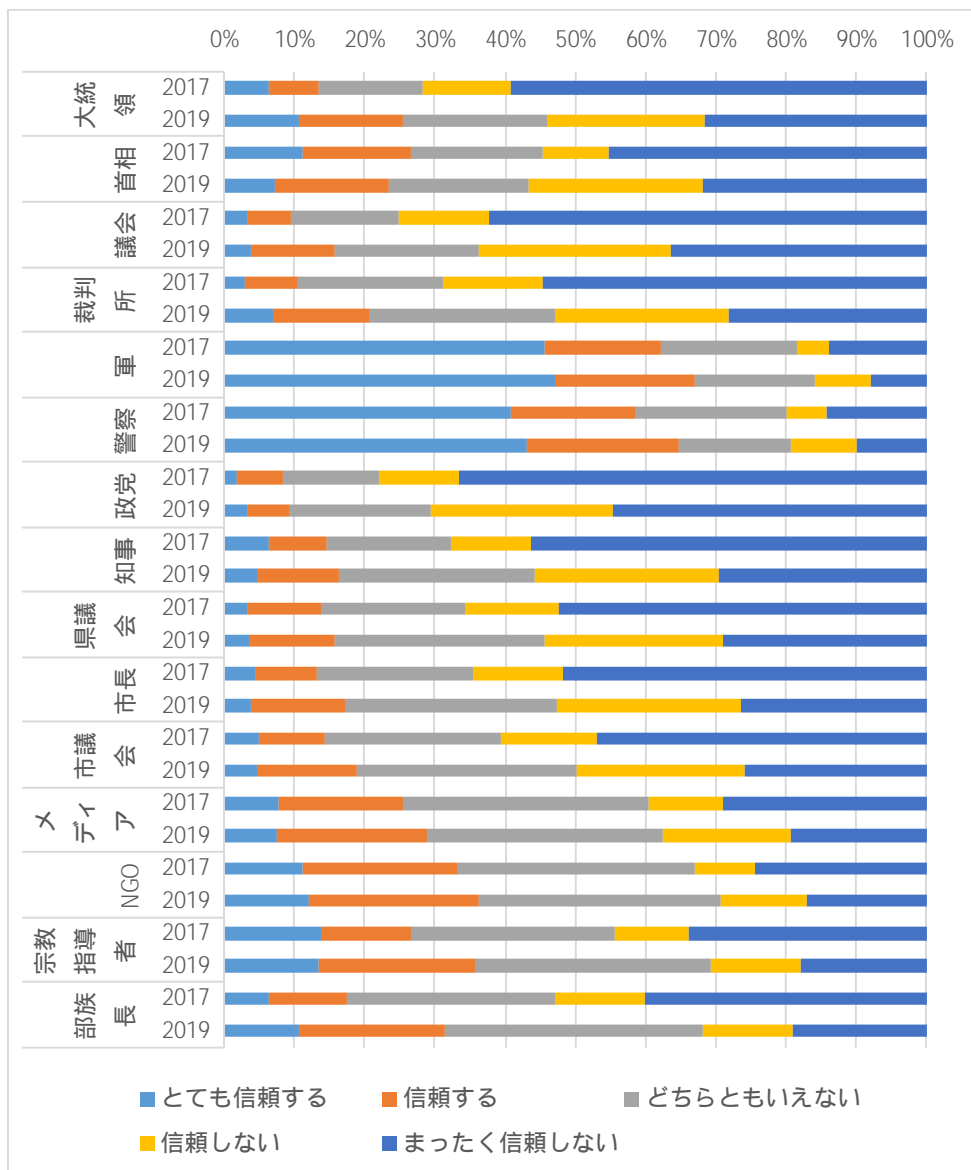
以上を総合し、国家に代わってトランスナショナルなアクターやネットワークが人々のナショナル・アイデンティティの形成にいかなる影響を与えているかを分析し、とくに既存の国家とは異なる国家観に基づくナショナリズム形成のプロセスを見ることで、国民形成の動態を明らかにしようとした

4. 研究成果

(1) 国家建設の頓挫と国家への信頼喪失のプロセスの解明

政治不信の蔓延にかかわる世論調査の結果は図1のとおりであり、やはり様々な側面で政府に対する信頼度が低下し、政治不信の蔓延している状況が実証できた。イラクの政治不信について、世論調査を全国規模で実施して実証した事例は世界的にもなく、日本語の単著にまとめて公開したことに加え、国際学会等で報告を行い、高い評価を得た。

図1：政治不信の蔓延

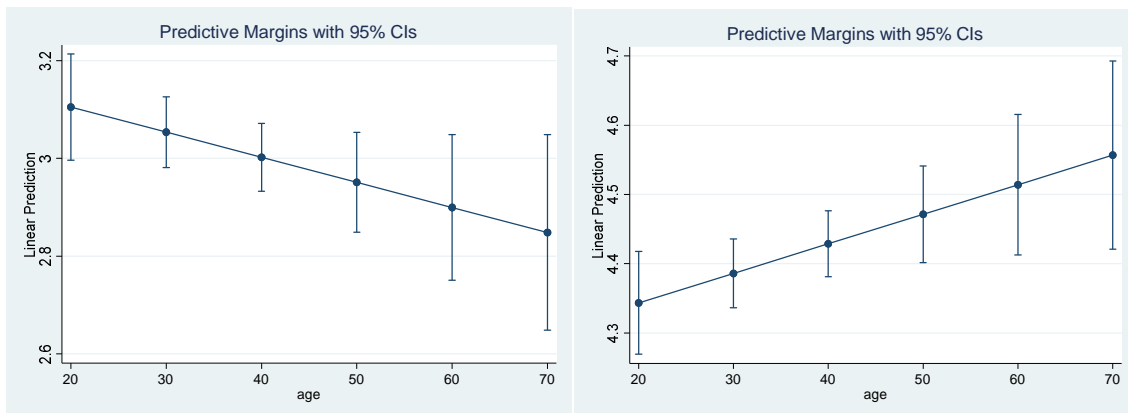


(2) 国民統合政策の変遷の解明

教科書分析によって浮き彫りになった国民統合政策における旧バアス党体制と新政権のあいだの差異について、世論調査をとおしてその受容の度合いを分析したところ、イラク戦争後に学校教育を受けた世代とそれ以前の世代のあいだには、国民統合政策に対する考え方に、大きな違いがあることが明らかになった。具体的には、図2のとおり、若年層ほど新しい国民統合政策を

受容し、年配層ほど旧体制の統合政策を支持しやすいという結果が判明したのである。

図 2：新たな「国史」の核への支持の年齢別の確率（左は「民主主義の獲得」、右は「古代文明の発祥地」に対する支持の推計）



(3) トランスナショナルなネットワークの解明

トランスナショナルなネットワークを駆使した組織が様々な活動を展開しているにもかかわらず、彼らが実際には強いナショナリズムを示していること、そしてナショナルな枠組みを超えた活動に対してほとんど支持が集まっていないこと、などが判明した。

以上の結果、紛争とその後の復興プロセスで国民統合政策がかなりの程度機能していること、その結果としてナショナリズムがかなり重要視されていること、政府や政治に対する不信感が国家の枠組みの解体ではなく強化と改革に向けられていること、などを実証的に明らかにすることができた。こうした点が、国民形成を、ゆっくりではあるが確実に推し進め、結果的に紛争後の社会と国家の解体や崩壊を回避している、という点が明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 山尾大・久保慶一	4. 巻 1
2. 論文標題 計量テキスト分析による関係性分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 酒井啓子編『グローバル関係学とは何か』	6. 最初と最後の頁 168-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 4
2. 論文標題 変容するイラクの国家観 紛争の影響をはかる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 末近浩太・遠藤貢編『紛争が変える国家』	6. 最初と最後の頁 104-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamao, Dai	4. 巻 0
2. 論文標題 Regime Change and National Integration Policy: Focusing on Iraqi School Textbooks before and after the 2003 U.S. Invasion	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Keiko Sakai and Philip Marfleet eds., Iraq after the Invasion: People and Politics in a State of Conflict	6. 最初と最後の頁 153-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大・浜中新吾	4. 巻 61
2. 論文標題 ポスト紛争社会の政治動員と投票率の関係 イラクにおけるサーベイ実験から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2 - 27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamao, Dai	4. 巻 28
2. 論文標題 Re-securitization as Evasion of Responsibility: A Quantitative Text Analysis of Refugee Crisis in Major Arabic Newspapers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Population and Social Studies	6. 最初と最後の頁 1 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 0
2. 論文標題 準軍事組織の分断がもたらす奇妙な安定 IS後イラクの政軍関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 未近浩太編『シリア・レバノン・イラク・イラン』	6. 最初と最後の頁 97 - 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamao, Dai	4. 巻 8(4)
2. 論文標題 The Conflict in Iraq and its Impact on Perception toward Statehood: Based on Poll Surveys	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Relational Studies on Global Crises Online Paper Series No. 8, Working Paper No. 4, May 1, 2019	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 5
2. 論文標題 ISのインパクトをはかる イラク主要3紙の量的テキスト分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ』No.5	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 6
2. 論文標題 送り出し国で難民危機はいかに報道されたのか アラビア語主要紙の量的テキスト分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ』No.6	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 2月号
2. 論文標題 「勝利」したイラク人民動員隊とイラン革命防衛隊 ソレイマーニー司令官殺害の政治的インパクトを 考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中東協力センターニュース』	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamao, Dai	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 From Regional Politics to Street Demonstrations: Changes in the Iraqi Communist Party's Political Strategies in the Post-war Era	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Contemporary Iraqi Studies	6. 最初と最後の頁 147-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 533
2. 論文標題 政治不信がもたらした組織政党の躍進 第4回イラク議会選挙 (2018年5月) の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 37-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 194
2. 論文標題 暴力を拡散させた体制転換 イラクの事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 29-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamao, Dai	4. 巻 4
2. 論文標題 2017 Opinion Poll in Iraq: Sampling Method and Descriptive Statistics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Relational Studies on Global Crises Online Paper Series: Research Report	6. 最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Hamanaka, Shingo and Dai Yamao
2. 発表標題 Political Mobilization and Its Impact on Voter Turnout: Based on a Survey Experiment in Iraq
3. 学会等名 Southern Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 宗派主義の政治的意味をはかる イラク主要紙の量的計量分析
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kinoshita, Hiroko and Dai Yamao
2. 発表標題 A Quantitative Text Analysis on Mobilization of the Electorate by Islamist Parties during the 2018 Iraqi Parliamentary Election
3. 学会等名 International Conference on Global Risk, Security and Ethnicity, IPSA Research Committee 44 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 Measuring the Impact of the IS on Media Reporting: Based on Quantitative Text Analysis of Major Iraqi Newspapers
3. 学会等名 Poltex (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 How the Refugee Crisis was Reported in the Middle East: A Quantitative Text Analysis of Major Arabic Newspapers
3. 学会等名 JAIR Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 "Re-securitization" as "Evasion of Responsibility": A Quantitative Text Analysis of Major Arabic Newspapers on Refugee Crisis
3. 学会等名 Relational Studies on Global Conflicts: International Conference on Resources and Human Mobility (Mahidol University, Bangkok, Thailand, 2-3 December, 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 地域研究と政治学を架橋する イラクを事例に
3. 学会等名 日本中東学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 IS後のイラクを支配するのは誰か 第4回議会選挙分析
3. 学会等名 緊張高まる中東 イラン、イラク、レバノン、イスラエルの今を分析する（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 Struggle for State Images in post-war Iraq
3. 学会等名 World Congress of the Middle East Studies, WOCMES 5 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 Reconfiguration of State Image in Fighting State Enemy in Iraq
3. 学会等名 25th World Congress of Political Science, International Political Science Association, IPSA (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 Negotiating multi vectored state image in fighting state enemy in Iraq
3. 学会等名 ・2018. “Negotiating multi vectored state image in fighting state enemy in Iraq”, (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamao, Dai
2. 発表標題 Conflict and its Impact on Statehood in Iraq: Based on Poll Surveys
3. 学会等名 Relational Studies on Global Conflicts: Toward a New Approach to Contemporary Crises (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 山尾大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 284
3. 書名 紛争のインパクトをはかる 世論調査と計量テキスト分析からみるイラクの国家と国民の再編	

1. 著者名 高岡豊・溝淵正季編著、山尾大、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 『立ち上ったイスラーム主義 戦後イラクにみる多様な展開』 『「アラブの春」以後のイスラーム主義運動』	

1. 著者名 小笠原弘幸編、山尾大、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 324
3. 書名 「イラクからみるトルコ 世論調査の計量分析から」 『トルコ共和国 国民の創生とその変容 アタテュルクとエルドアンのはざままで』	

1. 著者名 酒井啓子編、山尾大、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 273
3. 書名 「宗派主義の拡大と後退の条件 イラク世論調査にみる政党支持構造分析から」 『現代中東の宗派問題 政治対立の「宗派化」と「新冷戦」』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------